

まえがき

1775年4月19日、ボストンの北西に位置するレキシントンの広場でにらみ合っていた英国軍と植民地民兵隊が、ひとつの銃弾をきかっけに撃ち合いを始めた。それがきっかけとなって始まったのが「レキシントン・コンコードの戦い」であり、アメリカ独立戦争の始まりでもある。

マサチューセッツ州レキシントン町は、多くのアメリカ人にとって祖国が誕生するきっかけになった重要な場所である。一年を通じて観光客が途絶えないが、ことに「レキシントン・コンコードの戦い」を記念するペイトリオッツ・デーには全米から観光客がおしかける。

アメリカ合衆国は、全体的には右寄りの中道だと言われている。だが、アメリカ合衆国誕生の地ともいえるレキシントン町は、全米でも極めてリベラルである。差別の少ない環境と優れた公立学校で知られるためか、町の公立学校の3割近くがアジア系で、白人ではユダヤ人(全米では人口の1.4%)とカソリックがマジョリティで、次に他国からの移民が多い。全米でマジョリティのWASP(ホワイト、アングロ・サクソン、プロテスタント)は、この町ではマイノリティである。成人人口の6割以上が民主党員であり、2008年の大統領選挙では約73%がオバマに投票した。

そんな現在のレキシントン町は、自然発生したわけではない。これは、多くの人々のたゆまない努力の結果なのである。10年ほど前からボランティアなどを通じてそれを知った私は、それを米国に在住する日本人のために、ボストンの月刊情報誌「TAKARAマガジン」で、2007年4月から2009年3月の2年間にわたりルポを連載した。このEブックは、それをまとめたものである。

2年間にわたって書いたものなので、続けて読むと不自然に感じる箇所もある。対象となる読者は、必ずしも継続して読んでいた人ではなかったので、同じような内容が繰り返されている。また、今振り返ると古い情報もある。

だが、日本のマスメディアが伝える画一的な米国の民主主義のイメージとは異なる、住民レベルでの民主主義を知っていただきたいと思い、あえて無料Eブックとしてまとめてみた。

この機会を与えてくださったTAKARAマガジンのオーナー編集長の中島やすこさんに、この場を借りて感謝したい。

2010年 12月28日

渡辺由佳里

<http://watanabeyukari.weblogs.jp/about.html>

お願い：本Eブックの内容の引用は、出典を明らかにし、商業的利用をしないことを条件に、ご自由にどうぞ。